

第2章

第2次東海市健康増進計画の策定

2-1 計画の期間

本計画の期間は、平成26年度（2014年度）から平成35年度（2023年度）までの10年間とします。

なお、平成26年度からスタートする第6次東海市総合計画※（以下「第6次総合計画」という。）の計画期間（平成26年度～35年度）との整合性を図るものです。

※総合計画：地方自治体が策定する自治体のすべての計画の基本となる行政運営の総合的な指針となる計画

推進スケジュール

【前期5年】 めざせ、平均寿命県内トップ					【後期5年】 めざせ、健康寿命日本一				
1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度
計画の共有									
連携のための道具づくり									
各種事業展開					各種事業展開				
応援団制度の設立									
前期の評価 目標値設定					後期の評価 第3次策定				
H27平均 寿命発表					H32平均 寿命発表				

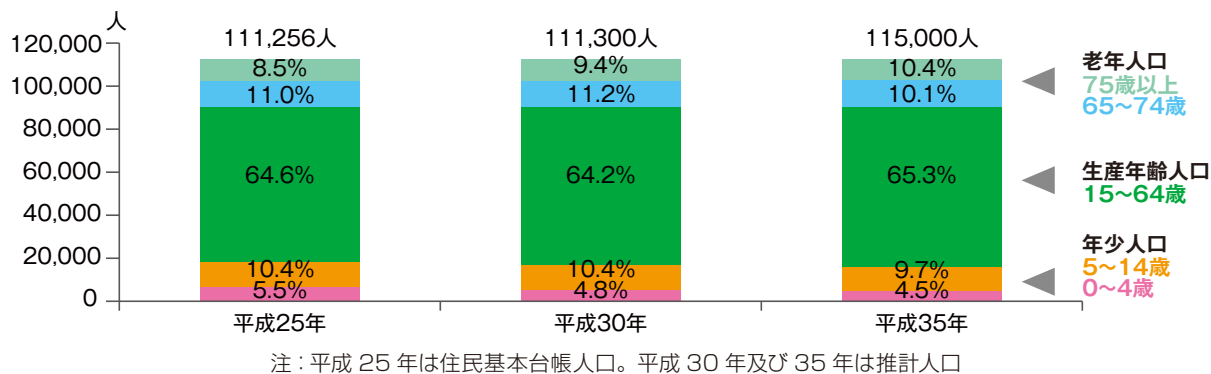
2-2 計画人口

本計画の最終年度である平成35年度の推定人口は、第6次総合計画に示されている計画人口115,000人とします。

なお、平成35年度の年齢別構成人口は、年少人口（0～14歳）が14.2%、生産年齢人口（15～64歳）が65.3%、老年人口（65歳以上）が20.5%になると予測します。

本市の人口構成の特徴である「若い世代の転入が多く、出生率も全国平均を上回り、高齢化率は全国に比べ低い」といった傾向が続くことで、少子高齢化の進行はゆるやかであり、また、生産年齢人口は維持できるものと予測しています。

年齢区分別人口構成図



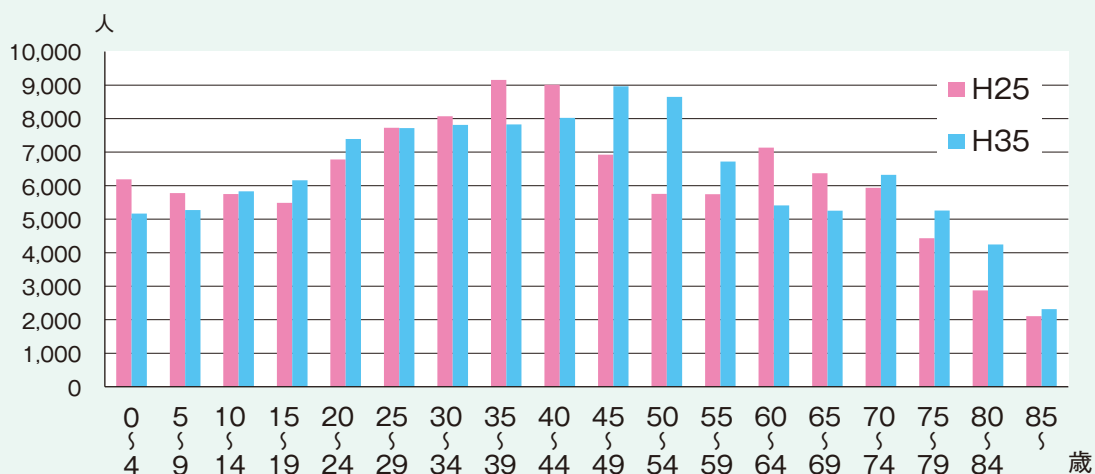
区分	平成25年度	平成35年度
年少人口 (0～14歳)	17,723人 (15.9%)	16,400人 (14.2%)
生産年齢人口 (15～64歳)	71,808人 (64.6%)	75,100人 (65.3%)
老年人口 (65歳以上)	21,725人 (19.5%)	23,500人 (20.5%)
合計	111,256人 (100%)	115,000人 (100%)

本市の特徴として、老年人口の構造を前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者（75歳以上）と分けて見ると、平成25年度と比較して、平成35年度の前期高齢者の割合は、5.5%減少し、後期高齢者の割合が26.1%増加していくと予測しています。

前期・後期高齢者の人口推計

区分	平成25年度	平成35年度	増減
前期高齢者 (65～74歳)	12,309人	11,630人	5.5%減
後期高齢者 (75歳以上)	9,416人	11,870人	26.1%増

5歳階級人口推計図

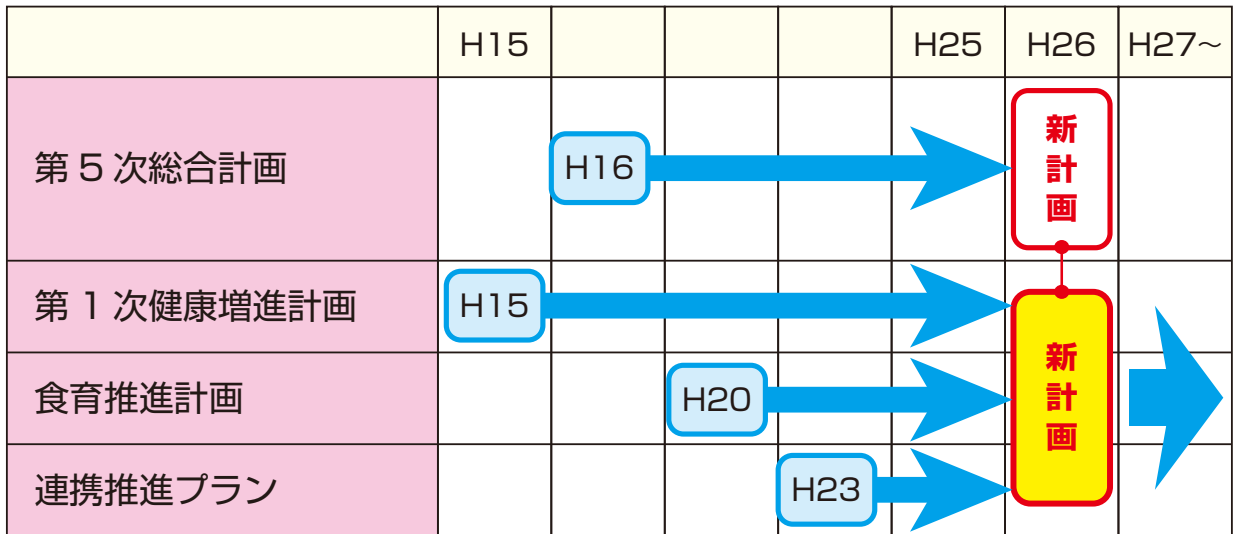


2-3 計画の位置付けと役割

(1) 計画の位置付け

本計画は、健康増進法第8条第2項の規定による健康増進計画に位置付け、第1次健康増進計画、食育推進計画、連携推進プランを統合して、市民の健康増進の総合的な推進を図るための方向性を定めます。

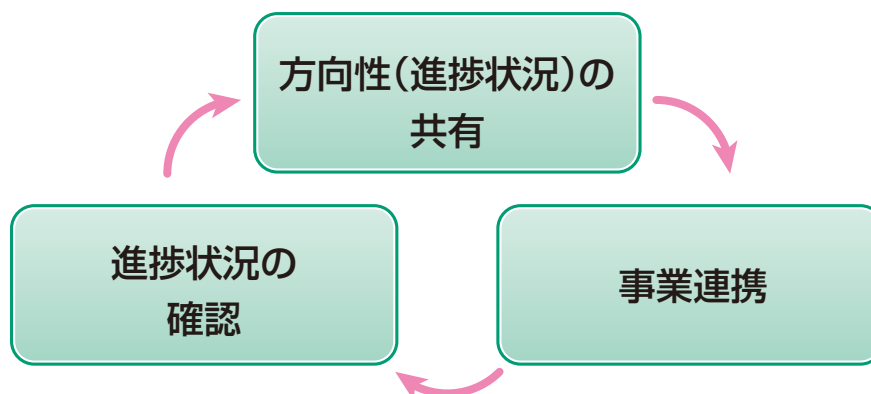
また、本市の健康づくり施策を総合的・一体的に進めるため、総合計画の健康づくり分野の計画として、関連計画との調和を図ります。



(2) 計画の役割

本計画では、市民、地域、団体、企業、市のそれぞれの担い手が連携し、事業を推進していくため、協働と共創によるまちづくりの考え方を大切にしたマネジメントサイクル（Plan-Do-Check-Action）により、計画期間（10か年）における取り組みを進めます。

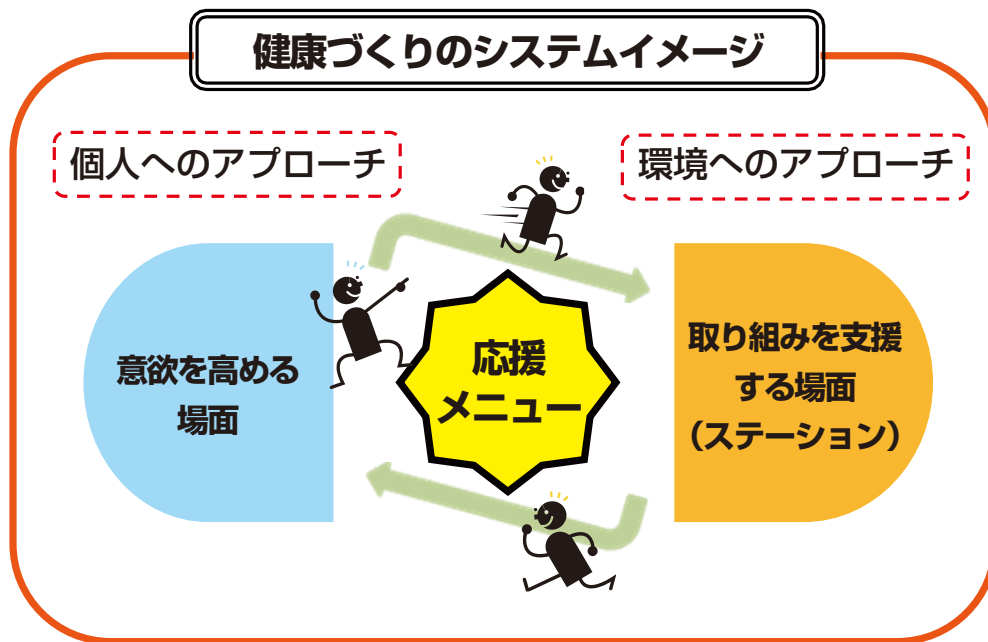
- ア 推進の方向性（進捗状況）を明らかにし、健康施策を共有します。
- イ 進捗状況に合わせて、関係者と連携した事業を展開します。
- ウ 関係者による議論の場を設け、施策や事業の進捗状況を確認します。



2-4 オリジナルシステムの継承

いきいき元気推進事業では、事業の基盤となる各種事業の効率的で効果的な「連携を図るための道具」を活用して、「市民が主体的に行動できる環境づくり」のためのシステムを、健康づくり振興事業団、東海市医師会などの関係機関とともに開発し、実践してきました。

本計画においても、このシステムを継承し、事業展開を行います。



(1) 健康応援情報(運動・食生活応援メニューの提供)

上記システムの「連携を図るための道具」として開発したのが、一人ひとりに合った、運動・食生活の応援メニューです。

運動応援メニューでは、星の数で自分に合った運動の強さや、ウォーキングの速さと時間をわかりやすく示しています。

また、食生活応援メニューでは、四つ葉を使いエネルギー、バランス、野菜、塩分の4項目の目安量をわかりやすく示しています。



運動応援メニュー

あなたにあった「運動の強さ」

★ ★ ○ ○

あなたが「運動の強さ」

★ ★ ○ ○

あなたが「運動の強さ」

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

食生活応援メニュー

あなたが「食生活の強さ」

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

★ ★ ○ ○

(2) 健康応援ステーション

上記システムの「市民が主体的に行動できる環境づくり」として取り組んでいるのが健康応援ステーション制度です。

健康応援ステーションは、市民の健康を応援するメディカルステーション、運動を応援する運動ステーション、食生活を応援する食生活ステーションで構成され、健康づくりに取り組みやすい環境整備として取り組んでいます。



◆ システムフロー

◇ 市民の健康づくりを応援（東海市医師会・歯科医師会・薬剤師会と連携）



◇ 市民の運動を応援（市内運動施設と連携）



◇ 市民の食生活を応援（市内飲食店と連携）

